

## 市町村との意見交換会について

日時：令和元年7月25日（木）

午後3時15分～午後5時15分

場所：大阪府立国際会議場 10階 1009会議室

開会 午後3時15分

○事務局 定刻には少し時間ありますが、皆さんお揃いでございますので、よろしければ会議を始めさせていただきたいと思えます。

本日の司会進行させていただきます関西広域連合本部事務局長の村上でございます。

初めに、ご出席いただいております皆様を紹介すべきところでございますけども、お手元の配席表をもってかえさせていただきたいと思えます。

また、本日の進行でございますが、第1部では、関西大学理事・特別任命教授の河田先生から「南海トラフ地震などの大規模広域災害への備え」と題して、お話をいただき、その後、広域防災、また南海トラフ地震対策等についての意見交換をしていただければと思えます。

また、第2部では、広域連合の本年度の重点的な取り組みについて、主なものについてご報告を申し上げ、また、関西共有の課題として、ワールドマスターズゲームズ、また、大阪・関西万博について意見交換をさせていただければと考えております。本日はどうぞよろしく願いいたします。また、この意見交換会は、公開で開催させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは初めに、井戸広域連合長から挨拶を申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 本日はお忙しい中、市町村長の皆様にはご出席いただきましてありがとうございます。この会議は、前回は12月に開催をさせていただいて活発な意見交換をいただいたところでございます。今回15回目の開催となりますが、

関西全体の課題につきまして共通理解を深めさせていただき、関西の発展に繋いでいきたい、このように願っているものでございます。

最初にお礼を申し上げます。G20でございますけれども、おかげさまで、大変スムーズな運営と、それから交通量の削減などにつきましては、当該大阪のみならず周辺の皆様のご協力もあって円滑に進めることができました。心からお礼を申し上げたいと存じます。このサミットの成功によりまして、関西の歴史文化だけではなくて、関西の持っているポテンシャルを十分世界に発信することができたのではないかと考えておりますし、今後、関西で開催されますワールドマスターズゲームズ2021関西や、2025年の大阪・関西万博にしっかり繋いでいくことができるのではないかと考えております。

さて、関西広域連合でございますけれども、今年で9年目を迎えております。ご承知のように、7つの広域防災ですとか広域産業ですとか、7つの持ち寄り事務の推進につきましては、それなりの評価もいただいて活動を展開してこれたと思っておりますが、課題は、もう一つの大きな目標でございました国からの権限移譲、国からの事務移譲の問題でございます。関西広域連合が国の事務の受け皿として機能を発揮するべくスタートしたのでありますけれども、民主党政権時代に一度、法律の閣議決定にまで至りましたけれども、解散のため廃案になり、また、それ以降は地方分権につきましては、ご承知のように手上げ提案方式になっておりまして、しかも、その手上げ提案方式そのものがなぜ地方の方で行った方がいいのかを地方側から立証してこいと、こういう取り組み姿勢でありますので、元々事務の配分は法律だけで配分されているわけではない。国が行うのが適当なのか、地方が行うのが適当なのかという、そういう事務配分の原則に従って行っているはずでありますのに、効率性でもって手を上げて証明しろなんて言われたら、細かい事務しか移譲がされていないというのが目に見えているはずであります。結果として、そのような運用になってしまっております。私たちは、それでは駄目だということで、例えば府県域を越えるような計画づく

りですとか、あるいは都市計画決定権限ですとか、こういう府県域を越えるようなものについて広域連合に移譲したらどうだということを言っておりますが、なかなか国が乗ってこないという実情にありますので、我々としては提案として、従来のように、そういう大括りな事務移譲を求めていくこととあわせて、国と地方との協議の場に恒常的な地方分権を議論するような分科会を作ったらどうかとか、あるいは地方分権特区というような実験的な分権の取り扱いの事業を展開したらどうか。特に関西広域連合のような広域自治体、特別自治体ができているわけですので、関西広域連合にやらせてみたらどうかというような提案もしているものですが、なかなか難しい課題と思っております。

一方で、国の機関の地方移転につきましては、文化庁が京都に、これもここ数年の間に完全移転をするということになっていきますし、それから徳島への消費者庁につきましても、2020年には恒久的な拠点を、今までは実験的な機能であったわけですが、恒久的な拠点を徳島に作るということで、全面移転ではありませんけども、具体の動きになっておりますし、和歌山に統計局の統計データ活用センターができておりますが、これは総務省の統計局の統計だけではなくて、厚労省の統計ですとか、経産省の統計だとかも活用できるというような機能を付加されてきておりますので、この少なくとも3つについては、それなりの大きな進展を見たということが言えようかと思います。さらに、さらなる国の機関の地方移転についても働きかけをしっかりと継続して続けていきたいと考えているものがございます。

今年の秋から、G20に引き続きまして、ラグビーのワールドカップの世界選手権が関西でも開かれます。また来年はオリンピック・パラリンピック、そして再来年2021年はワールドマスターズゲームズ2021関西という、生涯を通じたスポーツを行っている人たちの世界大会が開かれます。生涯スポーツのオリンピックが開かれるわけがございます。そして2025年は、大阪・関西万博という形で、G20から始まって、関西が世界の中で注目される事業が続いているわけですので、官民一致して、関西の

ポテンシャルを世界に発信していくことのスタートをぜひしっかり切っていきたい、このように願っているものでございます。

また、関西広域連合のいわば活動の源であります広域計画第4回目の改定作業を実施いたしております。柱としましては、活力のある関西の創造に関連いたしまして、世界やアジアと繋がる創造的拠点・関西、そして人や物や文化や歴史を活かした地域の振興を図る関西、そして関西の各地域がしっかり発展できる関西というような柱を掲げまして、関西の発展を期していこうといたしているものでございます。今年一年かけて十分議論を進めてまいりますので、市町村の皆さんにもご説明を申し上げながら、ご意見も伺い、まとめさせていただければと思っている次第でございます。よろしくご協力をお願い申し上げたいと思います。

今日は先ほど、冒頭で15回目だということを申し上げましたが、ぜひ、ご疑問に思われている点も含めまして、忌憚のない意見交換をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いを申し上げる次第です。

今回2部構成になっておりまして、1部は、関西大学の河田先生に防災に関連する基調講演をいただきまして、ディスカッションをさせていただこうとするものでございます。2部に、関西広域連合の今年の取り組みの概要をご説明申し上げた後、ご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いをいたしまして、私のご挨拶にさせていただきます。

○事務局　　どうもありがとうございました。

それでは、早速第1部に入らせていただきます。

まず初めに関西大学の河田先生からお話をいただきます。それでは、先生よろしくお願します。

○関西大学理事・特別任命教授（河田恵昭）　　「南海トラフ地震など大規模広域災害への備え」について説明

○事務局　　どうもありがとうございました。

それでは早速意見交換に入りたいと思います。

市長さん、町長さん、また広域連合の知事、市長さんの方からも、色々のご意見あるかと思しますので、どちらからでも結構です。よろしく願いいたします。

○檀原市長（森下 豊）　　河田先生ありがとうございました。圧倒されました。おなかいっぱいになったんじゃないかと、本当に現場に立った意見を色々いただきまして本当にありがとうございます。我々ここにいる市長会でも、今、全国市長会会長の相馬市長がやってくれています。立谷市長、相馬市は、東日本で大分やられましたので、それを経験した中で、我々市長会に対しても、ああしようかこうしようかということ提言していただいて、また、特別委員会もその防災の特別委員会、全国市長会の中にも作っていただいております。そんな中で、いろんな議論もさせていただいているんですけども、我々のこの関西であれば、やっぱり南海トラフなんですね。

南海トラフが始まる時に、さっき先生言われたのとちょっと違うんですけども、東の方で揺れたときには、それは心配して、早いうちに避難せなあかんという言い方をされた先生方もおられました。そのときは国からも、多分総務省の方だったと思うんですが、指示を出しますということをはっきり言われました。もうこっちは全然揺れてない状態なんですけれども、そういうこともあり得るんだなということ、我々は実は知らなかったもので、そういう南海トラフの取り組みというの、一つの選択肢なんですけれどもあるなというのを初めて知ったんですが、今日は先生、そんなもん、そんな考え方あかんみたいな話をされてしまったので、いろんな東南海に関しましても出方があるんだなと。改めてこの中で今一番思ったのは、普段からの我々市町村でいますと、コミュニケーションは非常に大事やなということ、そして、それから市町村だけじゃなくて、広域連合のような府県をまたがった連携が本当に大事なんだなというのを今痛感しているんです。簡単に言いますが、難しいんですね、なかなか。

市町村にしても、横の町と仲良い所と悪い所と、それはもう当然ありますし、ただ、今、地方分権一括法がこれだけ進んできまして、もう合併できなかったところは弱いところがもうはっきりしてきていますので、そういう意味では、今日は奈良県知事が来ていませんけれども、奈良県は奈良モデルという中で、いろいろ助け合い、連携をとって、多分、それが強い県かなというふうに思います。そういう意味では、県が旗振りしてくれて、奈良県内の市町村サミットなんかも年5～6回開いていただいていますし、そういう中でのコミュニケーションは非常に活発になってきて、いろんな足りない部分、頼みますよということが聞こえてくるようになりました。それも一つ、こういう防災に関しては非常に大事なことで、いざというときに色々な話ができる間柄というのを作っていくことが大事だなというふうに思いますので、これからもそういう面ではどんどんそういう良い関係を進めていきたいなというふうに思います。ただ、先生言われる中で、色々専門的な話がいっぱいありましたので、ただ我々、今それを聞きますと、どうしようと。もうがたがた震えるしかないわけでありますので、もう少し、すみませんけれども、細かい部分で結構です。市町村ではこんなことを、まずこんなことからというお話があれば、お伺いしたいと思います。

○関西大学理事・特別任命教授（河田恵昭）　まず、一番駄目なのは消防なんです。消防、自治体消防でしょ。連携できないんですよ。こんな大規模な災害になったときに。ですから、昭和23年に消防が自治体消防になって、消防庁が全くICSないんですよ。そうすると、南海地震起こったときにどうやって消防活動するかといったときに、バラバラなんですよ。ですから、熊本地震で広域消防が行きましたけど、みんな指令がないものだから、勝手に動いとったんですよ。ですから、中央集権が良いとは言いませんけれども、こういう大規模な災害になったときに、警察は警察庁がICSを持っている、自衛隊もICSを持っている。消防は全然ないんですよ。

西日本豪雨のときに、倉敷消防署は何やとったんだと。真備の支署は水没しちゃって、消防自動車も全部だめになっちゃった。2,500件の119番が掛かってきたんです

よ。倉敷消防署に。君ら何しとったんだって。市長が避難指示を出しているのに、消防が119番が掛かってこないと動かないっておかしいんじゃないのかって。自治体から給料を貰っているくせに何しとったんだって。広島市は3,400件、119番が掛かってきた。何もできなかった。だからまず、消防の再編をやっていただかなきゃ困る。大規模災害が起こったときに、この関西広域連合と同じように対口支援というようなものができるのかどうか、今できないんですよ、消防。消防庁は今さら中央集権でやらせろとは言いませんけども、だけど少なくとも府県単位で市町村消防をどうするかということをもとめていただかないと、広域の消防応援というのは今できなくなっちゃっている。まず、それが一番大事なことだと思うんですね。

それから大阪北部地震はそうだったんですが、実は、枚方市、高槻市、茨木市、いろんなところで被害が出たんだけど、大阪府との連携はゼロでした。何故かと言いますと、大阪府知事は維新、市長は自由民主党、全然交流がないんですよ。ですから、支援は全部大阪市長会の会長のところに市長が電話して色々手配したと。大阪府から、実は30人ずつ高槻市と茨木市に行ったんです。行ったけれども、日頃交流がないものだから、何を応援していいかわからない、ぼうっとしておったというのが現状なんですよ。現状はそうなんですよ。ですから、トップ同士が交流していただかないとうまくいかないって。災害が起こったから、いきなり連携なんかできるわけがないんです。ですからやっぱり例えば滋賀県なら滋賀県知事と市町村長との定期的な顔合わせって、こういうのが絶対必要なんですよ。それ事務レベルでやったって駄目なんです。だって、権限はトップが持っているんですから。交流がないと、いざというとき電話一本で動かないでしょ。だから、そういう関係を作っていただくということが大事だと思いますが。

○樫原市長（森下 豊） すみません、ありがとうございます。奈良県は、良いお話いただいたんで、90万規模の大広域消防ができています。これは紀伊半島大水害のときに、荒井知事が旗振っていただきまして、何にもできなかったんです。十津川の

端っこで起こった災害に関して。我々広域消防十何個あったんですけども、全く動けませんでした。今言われたとおりです。それを見ている、皆で助け合いせなあかなということ、その反動なんですけど、固まりました。11の広域消防が固まって、90万の大広域消防ができて、今、総務省の方でも喜んでいただいて、モデル事業やというてなっとるんですけども、その90万の規模の消防も今回、先生言われた岡山県の真備町に救助に行かせていただきまして、やっぱり90万規模になりますと、消防力はかなり高くなりますので、良い活躍したかなというふうに聞いております。まだまだこれからですけども、全国的にも広域消防は本当に大事だなと思います。ただ、できないのも理由があるんです。消防は縦割りですので、地元のいろんな人との関係がありまして、既得権の争いですね。それをやっぱり一つ一つ切っていくと、なかなかできない部分が当然あります。でも、する価値は十分あると思いますので、これはいろんなところにまた私も広域の管理者として、いろんな所へ寄せていただきたい、言っていきたいというふうに思っています。それとやっぱり大阪は、ちょっと奈良は上手いこといっていますので、知事と。でも、大阪はちょっとあれですので、松原市長にマイクを渡します。

○松原市長（澤井宏文）　　今話を聞いて発言するというのは大変難しいんですけども、問題意識の共有としては、我々、市長会でも十分検討しながら共有を図らせていただけたらと思います。また、先生には、そういう機会にはぜひ、ご意見をいただければと思います。先ほどより消防の問題であったり、縮災のお話であったり大変迫力のある話を聞かせていただいたので、まずは市長会で問題共有をさせていただきながら、市に帰って、危機管理課とも今日の資料を共有させてもらおうかなと思っています。

その上で、広域消防のところで、一府の市長会の会長として、一つの自治体の長として、どちらのスタンスでもなかなか発言はしにくいんですけども、先ほど縮減というところで、協働の大切さについて先生おっしゃっていたので、うちの取り組みをお

話させていただきたいんですけども、今、松原市が大変力を入れておりますのが、協働の担い手づくりというところでありまして、大阪で初めて、我々セーフコミュニティという国際認証をいただいた市なんですけども、この柱は協働であります。災害時の防災力の問題も含めて、怪我や病気だとか、事故や事件の発生なんかを防ぐ。これは、未然に防げるという観点から、あらゆるデータを基に、大阪府であったり、警察であったり、いろんなところの協力を得ながら取り組んでおります。そのうえで、セーフコミュニティを認証してから、私が一番難しい課題だなと思ったのが、やはり次の担い手を作っていくこと、特に子ども達は、地域の見守り隊の方々や自分たちが置かれている環境をよく知っておって、地域の大人に非常に感謝する気持ちを持っているんですね。この気持ちを、じゃあ今度は行動に移してもらおうということで、その学校版の取り組みを全市内小中学校22校でやっております。日頃より子ども達が学校の安心・安全を自分たちで考えて、改善に向けて取り組む活動をしてきていますので、この子たちがいずれ社会に出たときはもちろん、今も自分たちでできることを考えて行動してくれています。それは子ども達が協働の大切さを学んでくれるということで、学校では人権教育であったり、防災教育というのは、これまで力を入れてまいりましたけども、私がそこに協働教育というのを取り入れた結果が今育ちつつありまして、協働の大切さを学んだ卒業した子たちが、新たにまちの安心・安全を守る取り組みに参画をしてきていまして、この取り組みをこれからもずっと続けていこうというところを今やっております。また、そういったところの取り組み、これは大変時間がかかることです。もちろん教育というのは学校だけではありません。家庭や地域での教育もありますから、こういったところをさらにスピード持って醸成させ、機運を高めていきたいんですけども、先生、何かそういったところのアドバイスみたいなものがあれば、お聞きをしたいなと思います。

○関西大学理事・特別任命教授（河田恵昭） 熊本地震で益城町の避難所が何で大混雑になったかという、熊本市民も逃げてきた。益城町民だけでなく。というこ

とは、地震起こって、被害が出ると、まずある避難所に皆逃げてきますよ。だから、何が大事かという、それは松原市だけの取り組みじゃまずいんですよ。周辺も一緒にやらないと。だって避難してくる人って、どこへ行ったら美味しいものが食べられるかって、そういうのは伝わるんですね。でも松原市民というのは、皆法被を着ているわけじゃないでしょ。隣の八尾市とか藤井寺市の人来たらどうするんです。帰れというわけにいかんでしょ。ということは連携しないとだめだということですよ。ですから、そういうことを松原市で中心にやっていただくのは良いんだけど、隣接する市町村にも普及していただかないと、いざといったときに、松原市にむちゃくちゃ負担がかかるって。みんな知っているんですよ。どこへ行ったらちゃんと物があるかって。遅れているところが一番実は楽をするわけで、そういうことが起こらないようにしなきゃいけない。それには大阪府が頑張らなきゃいけないんですよ、はっきり申し上げて。だから市町村に丸投げじゃなくて、大阪府が松原市の周辺の市町村に松原と連携できなかつたら困るということを言っていたかかないと、一生懸命やればやるほど、被災者は松原市へ行くといいよって。そしたら、みんなそっち行くじゃないですか。どこの人かわからないでしょ。あなたは松原市民ですかなんて、そんなこと言えないじゃないですか。益城町がそうだったんです。熊本市に隣接していますから、たくさんの熊本市民が住んでいた、さっと来たんですね。だから、市民か町民かわからへんでしょ。大混乱ですよ。そういうこと起こりますよ。だから、松原市の取り組みを周辺も協働でやっていただくということにしていたかかないと。

○事務局 金村副市長さん、お願いします。

○淡路市副市長（金村守雄） 阪神・淡路大震災の震源地であります淡路市の副市長の金村です。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

まず初めに、兵庫県、井戸知事をはじめ兵庫県の各市長は非常に良い関係でありますので、まず、それをお伝えしておきたいなど、このように思ひます。

実は淡路市、阪神・淡路大震災から25年、そして市町村合併、平成の大合併から15

年が経過しました。これは震源地の私ども、一番は財政ですね。当初合併したとき、約1,000億の実借金を抱えました。その大半がやはり阪神・淡路大震災の起債を借りていますよね。その借金があったということで、ようやく15年が経過して、ここにこうして皆さんと同じようにテーブルにつける。これが震源地の市長の宿命だと、このように思っています。それだけ時間が掛かって、ようやく今になって回復してくる。それが大災害の一つの市町村の財政的に苦しんできた原因ではないかなと思っています。

当時は、やはり国の補助金は今みたいに全額補助はないんですね。住宅復興で4分の3。そしていろんな国の補助メニュー使っても3分の2と、その残りがやはり市町村の負担になってくるというような現状かなと思います。そして、それだけではないんですね。その災害に投じたいろんな公共事業のために、一般的な事業はどんどん遅れてきます。そういうのが被災地の大きな課題かなと思っていますので、今後、そういう面を含めて国の方の支援が必要かなと、このようにも考えております。

そして、まずは阪神・淡路大震災のとき、兵庫県全体で6,300人の方々が亡くなりました。淡路島は、約60人強亡くなっています。なぜ、淡路島がそれだけ犠牲者が少なかったかという、やはりコミュニティ、ここの家族の人はどこに寝泊まりしている、そして地域の消防が、ここのおばちゃん、あそこの部屋に寝とったはずやということで救出された方が非常に多いです。ただ、これは今から15年前です。今は、どんどん高齢化しています。そして核家族しています。地域の防災力、やっぱりどんどん変わっていますので、今からはそういうコミュニティを大事にする、そういうことをやっていかなあかなと、このように思っています。

私もいろんな町内会とか行きます。そしたら、どこへ避難したら良いんや、そういう話がよくあります。一番に阪神・淡路大震災のときに経験したのは、道に両方の家屋が倒れて通れない。避難するにしても避難できない。そういうことを考えますと、よく言うんですね。常日頃から、こういう場合はどこへ逃げるか、自分らで考えてく

ださい。行政の方が色々考えても、それは現実に災害あったら難しいですよ。自分らで、地域の方で、どの道を行ったら良いのか、どの高台へ行ったら良いのか、自分らで考えてくださいよと、自分で身を守ってください。そういう説明をしますけれども、一応避難所とか、そういうのは、ここにありますがという説明はします。今から高齢化してきます。それをどう行政の方がフォローしていくのか、大事だなと、このように思っていますので、また、先生の方から、色々ご指導いただいて、阪神大震災の教訓を全国に発信しながら、防災力を強めていきたいなど、このように思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。兵庫県は市町村とは非常に良い関係ですので、改めてお願ひを申し上げます。よろしくお願ひします。

○関西大学理事・特別任命教授（河田恵昭）　私も実は阪神大震災がきっかけで、兵庫県と非常に密接な関係をずっとしておりまして、大阪生まれで、今も大阪に住んでいて、大学は京都ですから、京都大学で教員30年以上やってきましたんで、京都もよく知っている。その後、阪神大震災の後、今、神戸の人と防災未来センターのセンター長をずっとやっているんですね。兵庫県のこともよく知っているんですが、一番文化進んでいるのは、やっぱり兵庫県ですよ。なぜかというとな知事が賢い。井戸さんのことを言っているんじゃないですよ、歴代の知事が賢い。ですから、残念ながら、文化が一番進んでいるのは兵庫県ですよ。これはもう僕は色めがねで見ているんじゃないくて、一番進んでいる。一番遅れているのは、残念ながら大阪ですね。大阪は文化がない。やっぱりトップの見識というのは問われているんですよ。だって、誰が考えても、どういう人が知事になってきたか、市長になってきたか見たらわかるんですよ。ですから、行政のトップの見識というのが、そこの地域の防災を含めた文化そのものが変わるということですね。

僕は、淡路島で一つ心配しているのは、3つの市になっちゃったでしょ。ところが消防団は昔のままでしょ。ここなんですよ、やっぱり。消防団も特に高齢化が進んで、なり手が少なくなっているというところで。住宅は、25年前の阪神大震災で全部潰れま

したですよ、悪いものは。そういう意味では、住宅自体の耐震性については、兵庫県は問題ないと思うんですが、さっき申し上げたように、震度6弱が淡路島全島ですよ。家具全部倒れる。こういう経験は阪神大震災ではなかった。阪神大震災はたった10秒ですから。1分以上揺れていたら、全部倒れるぞという見識を島民に持っていたかかないと、逃げ遅れるというか、家具の下敷きになるというようなことは、特に高齢化社会で、皆身動きできなくなっちゃっているんで、違う形の人的な被害が出てくる。ですから、住宅の耐震性は問題ないから、問題がもうないんじゃないんで、実は、今度は家具が全部倒れるというようなことが起こるぜって。ですから、家の中の整理整頓をやっているかいらないかで随分被害が違うということは島民もちゃんと理解しないと、二十何年前に経験したんだから、もう大丈夫。こういう安直に考えていただくと駄目ですよ。

それから今度は、福良あたりが大きな被害出ますので、淡路島の中で、淡路市の怪我人が一番少ないと思うんです。助けに行かなきゃいけない。ですから島内で、もう外から助けに来るなんていうのは不可能になりますし、四国の方がもっと被害大きいんですから、高速道路で淡路島は全部通過しますよ。みんな徳島の方に行きますよ、被害大きいから。だから淡路島の被害というのは、淡路島だけで何とかしなきゃいけないんで、ということは、淡路市が、要するに洲本とか南あわじ市のサポートしてあげなきゃいけない。だから関西広域連合の前に島内での救助活動というのを計画していただかないと、声を上げたから、助けに行けるかといったら、そうじゃないですからね。震度6弱というのは、幾ら準備していても、道路だって土砂崩れとか、崖崩れとかで通れなくなるなんてなことは十分考えておかなきゃいけないので、ですから、まず、広域連合の救援という前に、島内で淡路市が南あわじ市を支援するというような具体例を出して、消防団もそういう形で、どう動くというようなことを具体的にやっていたかかないと、いや、阪神大震災経験して、うちらは皆で助けあったんやという24年前の教訓は、そのままでは通用しないと思っていただいたらいいと思うんで

すが、脅かしてごめんなさいね。

○事務局 どうもありがとうございました。まだまだ意見交換したいところですけども、時間もございますので、一度ここで第1部の方の総括ということで、広域連合で防災担当をしてもらっています井戸委員の方から一言総括お願いしたいと思います。

○広域連合長（井戸敏三） 総括が長くなってはいけませんので、まずは、河田先生に、いつも河田先生、脅しの河田と言われているんですが、科学的エビデンスに基づいた脅しですので深刻なんですよね、聞いた方からすると。ただ、どういうふうに対応していったらいいのかという、対応の仕方というのは、いろいろ工夫をしていかなければいけないということなんではないかと思っています。そのような意味で、対応の仕方に王道はない、切り札はない、しかし、何らかのそれぞれの地域に合った対応力が必要だと。このことを河田先生のご講演から学ばせていただいたのではないかなと、こう思っております。

河田先生には心からのお礼を申し上げます。その脅しに負けない、我々の縮災対応をぜひ心していきたいと思っております。先生、本当にありがとうございました。

○事務局 どうもありがとうございました。ここで河田先生はご退席されますので、本当にまた、今後とも引き続きどうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。もう一度拍手でお見送りをお願いします。

（関西大学 河田理事・特別任命教授 退席）

それでは、続きまして、第2部に移らせていただきます。

○ 各分野担当委員による説明（資料説明）

1 関西広域連合の令和元年度の重点取組について

- ・井戸広域連合長：企画・管理事務（国の事務・権限の移譲等）広域防災、広域スポーツ振興、資格試験・免許等

- ・近藤京都府広域観光文化スポーツ振興局長：広域観光・文化振興
- ・加藤鳥取県令和新时代創造本部長：広域観光・文化振興（ジオパーク推進）
- ・山野副委員：広域産業振興
- ・山本和歌山県知事室政策審議課長：広域産業振興（農林水産）
- ・海野副委員：広域医療
- ・三日月委員：広域環境保全

2 WMG組織委員会事務局：「ワールドマスターズゲームズ2021関西」に向けて

3 山野副委員：2025年大阪・関西万博について

○事務局 どうもありがとうございました。

限られた時間になってまいりましたが、ただいまご説明した内容、あるいは、日頃から関西広域連合、あるいは各府県に対しての色々ご意見等あるかと思えます。この機会でございますので、市長さん、町長さんお話をいただければと思えます。

東近江市小椋市長さん、もしご発言がございましたら、お願いします。

○東近江市長（小椋正清） 東近江市の小椋でございます。相談役ということで、どういう立ち位置かよくわからないんですが、そうですね、いきなりなんで、私も県で防災の危機管理監をやっていたとき、それ以来、関西広域連合のこの席に座らせていただいております。その節は井戸委員、河田先生、本当にお世話になりました。福島支援を京都府と一緒にやっています、三陸沖を見たイメージがあって、今、ちょっと話戻るんですけど、南伊勢町と防災協定含めた包括連携協定をしております。南伊勢町、三重県で一番リアス式海岸が長くて、海拔が5メートル、10メートルなんで、琵琶湖の水位が80メートルですからね。我が東近江市は120メートル、したがって、まず津波は大丈夫だということで、長期避難、もう今からオファーしています。南伊勢町長に。さっき河田先生おっしゃったように、トップ同士がきちっと協定を結んで、いろんな意味で、防災に限らず、様々な、特に琵琶湖は海の幸が乏しいもので、

南伊勢、三重県で一番広い大きな漁の水揚げでございます。

東近江市の立ち位置は、関西、近畿2府4県で、一番東の果て、むしろ中部経済の影響が多いところでございます。関西もいろんなバリエーションがございまして、気候的にも、さまざまな地政学的にも東と西の文化の入りまじった環境だけではなくて、日本海型気候と太平洋型気候が本当に交差する地域で、豪雪地帯も持っておるわけでございます。

そういう中で、観光は、私も市政の一つ最重点政策課題として取り組んでおります。問題は、このほかの地域の方、特に近畿圏の方、持ってらっしゃると思うんですけども、あり過ぎて困っているということ。これどういうことかと申しますと、先般、先々週全国市長会議がございまして、令和という元号が採用された万葉集にゆかりのある首長が集められました。全国で4市です。奈良はもちろん入っています。あとどこだろうなと思ったら、実は宮城県の多賀城市と、もう一つは富山県の高岡市、それで、私たちはあり過ぎてというのは、この東近江ご承知だと思うんですけども、大海人皇子と額田王の相聞歌が詠まれた蒲生野という地がございまして。市の花もムラサキでございます。蒲生郡蒲生町、あるいは万葉あかね線という近江鉄道の路線、万葉という焼き肉屋、ものすごく美味しい焼き肉屋ですね、一応近江牛、一番美味しいかなと思って、また、お越しいただくと美味しい近江牛が食べられます。

そういう意味で、万葉あって当たり前なんですね。それを今さら何だろう、もっと言えば、山部赤人とゆかりのある山部神社と赤人寺もあります。万葉だらけなんですね。そのだらけがよそから見ると、まあ凄いなというんだけど、その地元の人とか県もそうなんです。例えば高岡市というのは、なぜ高岡市なのっていったら、大伴家持が国吏として5年間赴任しておった。そこで200首余りの歌を詠んで、その間、また多賀城市にも行っておったという、それだけで、観光政策に県も市も力入れているんですね。そのほか私ども、あと3年すると、聖徳太子1400年、あるいは近江商人、そして今年は1350年を記念して万葉の額田王と大海人皇子の相聞歌、天智天皇にめと

られた、元の女房と大海人皇子がよりを戻す、逢い引きをする地として東近江市が選ばれたと、これ冗談っぽく言っているんですよ。わかりやすい話なんですけど、これはもう実はそういうことなんですね。そこにロマンがあるということ、そして先ほど知事から話があった惟喬親王の伝説を背景に西暦858年、清和天皇が即位する、本当は、時の文徳天皇の第一皇子の惟喬親王ゆかりの木地師の発祥地というのもございます。難しいのはあり過ぎるんです。近江商人の館もごろごろあります。だから、絞り切れない難しさと、これ、三日月知事は今一生懸命、歴代の知事の中でも最も観光政策を頑張っていたいておるんですけども、滋賀県は基本的に何もしなくても豊かなもので、あまりガツガツ人に来てくれと言わない。PRも下手、したがってインバウンドも含めて滋賀が一番少ないんだらうなと思っております。そういった過去の経緯は払拭して、本当に広域連合で、インバウンドの方を大阪の堰の蓋を開けてもらったら、なだれ込むと思いますので、大津市長にいつも言っておりますが、もうひとつ大津市長はあまり関心を持たれていなかったようで、これからもっと私たちが尻を叩いていきますという実態を報告させていただいて、あとは本当に、うちも知事と市長の関係は非常に上手くいっておりますので、これからを見ていただいて、頑張っていきたいなと思っておりますので、広域連合の支援を一緒に頑張っていきたいなと思っております。

以上でございます。

○事務局　ありがとうございます。

あと、町村会の方から三郷町森町長、何かございますでしょうか。

○三郷町長（森　宏範）　いきなりのご指名ありがとうございます。

色々この関西広域連合でされているなというふうにも実感しております。そして今、奈良県の話を出していただきました。一番気になったのが、ワールドマスターズゲームズ2021関西でございます。その中にも先ほど大峰山の観光を含めたこと、津風呂湖のカヌーというふうにもおっしゃっていただきました。私、毎年大峰山には登って

いまして、その日だけは女人禁制となっておりますので、全然女性には会わないという日を決めております。

そんな中で、このワールドマスターズゲームズというのは、これ多分、生涯スポーツのことだと思えます。生涯スポーツを進めるということは、非常に健康になっていただく、そして長いことスポーツを続けていただくことによって、早くいえば、医療費の削減に繋がるのではないかなと思えます。関西がその医療費の削減について頑張っていけば、非常に良い成果が出るのかなと私は思いました。

そこで、やっぱりワールドマスターズゲームズ2021関西、奈良県も市町村39ありますけれども、非常に仲が良くって、連携ができております。この話を奈良県の町村会に持ち帰りまして、奈良県でいろんなスポーツをやったらどうかという案を出してみたいなと思えます。今日は橿原市長も来られていますし、私も町村会の代表として寄せていただいているわけでございますけれども、どうかそういう形で、先ほどからも出ていますように、連携というのが一番大事だと思います。この連携で、一番気になったワールドマスターズゲームズ2021関西、これでやって行きたいなというふうに思えますので、どうぞよろしくお願いします。

以上です。

○事務局　ありがとうございます。

続きまして、和東町堀町長さん何かございますでしょうか。

○和東町長（堀　忠雄）　失礼いたします。京都府の和東町の堀でございます。ただいま隣の森町長の方から大峰山の話が出ましたが、大峰山は、女性の方が登れない、うちには、その北の方の行場として鷲峰があります。これは女性も男性も関係ありませんので登っていただける。こういう状況があります。そのように考え、先ほど市長の話にも万葉集の話が出てきたんですけれど、うちも万葉集に関わっている町であるわけなんです。今、お話聞かせていただいている、全てにおいて連携しているんだなど。まず、感じさせていただきました。

和東町は、今、ワールドマスターズ、マウンテンバイクというのを抱えて、これからやろうとしているわけなんです。

和東町の位置というのは皆さんご案内のとおり、京都府南部にありまして、滋賀県の甲賀市さんと、また奈良市さん、また、そういう近隣の市と接しております。和東町には泊まる所があまりありませんし、そういったことを考えていきますと、近隣の皆さんのご協力をいただかないと、なかなかいかんのかなと。このように思っているところであります。

過日も京都府の方で実行委員会を開いていただきます。また、和東町でも実行委員会を計画していきます。そのときに、この間、三日月知事さんには、あとでご挨拶させてもらおうと思っているんですけども、甲賀市長さんにお会いさせていただいて、やっぱりいろんな協力、泊まる所とか、そういうところをお願いしたいと、こういうことで、近隣とのご協力をよろしくお願いしたい。まさに、この連合は、そういった地域の連携をとってやっていって成功させようと。

先ほど連合長の話もありましたように、こういう世界が注目する、こういう大会があるわけですから、ぜひとも成功させなきゃなりませんし、そうやって、そのポテンシャルを高める良い機会だと、こういうことでもありますので、和東町もお茶で濁す程度、申しわけないんですが、お茶の町でございまして、この機会に全国に宇治茶を発信していこうと、こういう機会に考えているわけでありまして。

そういう意味で、このワールドマスターズのこの大会が近隣の市町村のご協力いただいて、そうやって成功するわけですから、この成功の持続を京都府からもお話がありましたように、このスポーツ振興、観光振興、スポーツ観光、そういうものに繋がっていくとか、そうやってこれからの先ほど知事の、和東町のお茶も信楽焼の入れ物に入れて昔はやっていたものでございまして、そういう歴史の関わりもたくさんあるわけなんです。このときにそういったものを発信していける、大いに機会にしていければ、非常にありがたいなと、そういうふうに思っております。

それとあわせて申し上げますと、先ほどに関わって、協働、防災があるんですが、この協働というのは、これから大事だというのは、私、今日認識いたしました。それと先ほどの淡路震災の後でできたことだなというふうに言われておったんですが、和束町の計画は、協働のまちづくり、小さな町ですけど住民と一緒に取組んでいこうと、簡単なようで難しい。京都府の防災の中でも、そのときに、避難するときにはどうしたら良いかという、まずスイッチが大事やと。こんなことで、いろんなことに取り組んでおるんですが、そういう意味では、いろんな中で、今回こうして寄せていただいて、気づかせていただくところが多いということを感じさせていただきました。今後ともこれを機会に、さらに今申し上げた連携をとって、災害も含めてですけども、できるような機会を具体的に、また進んでいけたらと思っております。

まとまりのない話になりましたが、宣伝も兼ねて欲な話をして申しわけなかったんですが、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

最後になりますが、連合長のほうから、コメントと閉会のご挨拶をお願いいたします。

○広域連合長（井戸敏三） 大変盛りだくさんな内容の意見交換会になってしまいました。特に河田旋風に当てられたという感じがありまして、その後のディスカッションがいささか不十分であったかもしれませんが、非常に大切な安全・安心の問題でありましたので、お許しをいただきますれば幸いです。

また、小椋市長さんからは、南伊勢町との連携についてご紹介をいただきましたが、圏域を越え、そして状況の違うところ同士が連携をすることが、いざというとき相互扶助に繋がるかということの一例ではないかというふうに思います。ただ、万葉とか近江商人とか、東近江市がそんなにたくさんの観光資産をお持ちだというのは、私も寡聞にして承知しておりませんでしたので、今日は大変有力なニュースを頂戴するこ

とができてましてありがとうございました。

また、森町長さん、堀町長さんから、それぞれワールドマスターズゲームズについてのこれからの取り組みの意思表示をしていただきましたが、ぜひ、私は水泳平泳ぎに出るつもりでおりますが、両町長さんも何か、まだ2年先ですから、お二人だけではなくて、今日ご参会の皆様方は必ず自ら参加する、そして自分が競技者になる、このことを目指していただきますれば、ワールドマスターズゲームズは益々広がりを持ってくるのではないかと思います。差し詰め、近畿市長会会長森下市長は率先垂範、ぜひお願い申し上げたいと存じております。

それと、最後に堀町長さんも言われましたけれども、協働の体制をどのように作り上げていくかというのは、非常に大きな課題だと思います。金村副市長さんから、ご紹介ありましたように、24年前の阪神・淡路のときは地域コミュニティが相当しっかりしていましたので、あそこの家が潰れたけど、あそこの家のおばあちゃんは、あの離れに住んでた。だから皆で、あの離れを助けようといったら、ちゃんと掘り出されて助かったんですね。そういうようなコミュニティが残っているところは非常に少なくなってきた。その中で新しいコミュニティづくり、どのように作っていくのか。これは市町村にとりましても非常に大きな課題ではありますが、それこそ私たち広域の団体も一番の基礎は地域コミュニティのあり方に関わりますので、そのような意味で、一緒に地域コミュニティの再生なのか、地域コミュニティの再構築なのか、しっかり取り組ませていただいたらありがたいなと、このように思っております。

冒頭ご挨拶で申し上げましたように、広域計画につきましては、原案がまとまりますれば、市長会、町村会ともご相談申し上げて、パブリックコメントの前にもし意見があればというような形で、ご紹介をさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

きょうは若干時間がオーバーしてしまいましたが、このような意見交換会ができましたことに心から感謝を申し上げ、また、広域連合の活動に対しましてもご理解を賜

わかりますようお願い申し上げまして、最後の締めのご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局　　どうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして、意見交換会を終了いたします。

本日はお忙しい中ご出席をいただき、本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

閉会　午後 5 時15分